

特集 ■ 重症心身障害児のリハビリテーション

昨今の障害児医療にかかわる社会情勢から、重症心身障害児の在宅への流れがさらに進んで行くことが予想される。一方で、長期入院患者の医療ケアの重度化、在宅移行後医療的なサポート体制の不足、介護支援など家族サポート体制の不足、成人期以降の支援をどの分野が担うかなどの問題に対して、明確な解決策を得るには至っていない。今回の特集では、重症心身障害児のリハビリテーションについて、国内外の動向を解説していただいたうえで、各分野の取り組み、今後の課題、展望などについて解説していただいた。

重症心身障害児—国内外の動向 (曾根 翠氏, 115 頁)—

わが国における重症心身障害児福祉の動向について、法律の変遷や障害者自立支援法改正案施行により予測される変化を説明し、長期入所や通園・通所、短期入所、医療的ケアの実情について、諸外国の動向を交え解説している。今後は、リハビリテーション実施機関間の医療連携がより重要となる。

施設におけるトータルマネジメント (椎木俊秀氏, 119 頁)—

重症心身障害児施設の成り立ち、重症心身障害児の解説に加え、リハビリテーションの実際について、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、心理療法におけるそれぞれの介入方法を交え解説している。重症心身障害児には、生涯にわたって、生活援助と機能維持・向上・悪化防止の両面にリハビリテーションの役割が期待される。

地域リハビリテーション—通所 (黒川洋明氏ら, 125 頁)—

通所の定義や生活支援の視点の説明に加え、島田療育センターはちおうじの紹介を交え、重症心身障害児に対する通所支援の実際と今後の課題と展望について解説している。重症児・者が多くの時間を過ごす通所におけるリハビリテーションはライフステージに合わせた生活支援であり、豊かな生活を送るためには重症児・者だけでなく家族や支えるスタッフ、地域への支援も必要である。

地域リハビリテーション—在宅 (松本 務氏, 131 頁)—

重症心身障害児の NICU 後の問題、キャリアオーバーの問題に加え、在宅療法支援診療所や訪問看護ステーションなどの在宅医療に求められるもの、在宅リハビリテーションの在り方などについて、あおぞら診療所における実践を交え、解説している。小児リハビリテーションにおける課題として、小児科領域のリハビリテーションスタッフのマンパワーの確保、チームアプローチの構築、診療保険制度の改善などを挙げている。

リスク管理 (横山美奈氏, 137 頁)—

重症心身障害児のリハビリテーションにおける情報収集やアプローチの考え方を、てんかん、呼吸状態、摂食・嚥下障害、消化器疾患、栄養障害、皮膚の観察などの視点から、具体的にわかりやすく解説している。家族の負担と不安を軽減するためにも、個々の病態を理解し共同してリスク管理を行い、ケアをサポートする体制が必要である。

ニュース

独創的な詩、全国制覇、飴玉から宇宙へ言葉紡ぐ—神戸・須磨翔風高 2 年 西尾光暉君…143
1 日の平均労働時間、「医療・福祉」が最長—厚労省調査…150 柔道整復療養費適正化に厚
労省も本腰、検討会を 2012 年度設置…155 肢体不自由児の自立へ「教科書」—横浜・中村
特別支援学校が博報賞…174 障害者雇用 36 万人超、過去最高—厚労省調査、2011 年企業調
査…175 リハビリ中の脳活動、小型装置で正確測定—ATR と慶大、患者の負担軽減…175
認定社会福祉士、第三者機関が発足—一研修を認証、実践力評価…197 障害者の意思伝達手
助け、文字盤や PC を使い実践—松山で講座…201

お知らせ

第 2 回ヘルスケア・コーチング研究会…118 第 3 回顔面神経麻痺リハビリテーション技術
講習会…124 第 12 回自動呼吸機能検査研究会関東部会…169 日本リハビリテーション連
携科学学会第 13 回大会…169